日田市立桂林小学校　　H.18.8.31

# ＝　学力調査結果を活かした学力向上の取組　＝

《教科学力と学習意識との相関に注目し、バランスの取れた教育活動の構想》

★『意欲の向上を図る』基本的な考え方を徹底する

①子どもを見る見方を変える

子どもは、「できる子」として扱われると「できる」ようになる。子どもがどう扱われるかがすべてである。心にゆとりをもって、この意識改革を断行する。

②子どもの真意を解読して理解する

子どもは、自分の真意を理解してもらったと感じると、自分自身の力でどうしたらよいかを考え始め、意欲をもつ。高圧的に指示や命令を出す必要はない。

③まず教えて、その後で考えさせ、練習させる

子どもができないのは、教えられておらず、練習不足だからである。まずは教える。その後で考えさせ、練習させる。するとできるようになり、意欲もわく。

④良い生活習慣を確立する

テレビやゲームにふけり睡眠不足になると、健康的で意欲的な生活ができない。色んな場面や方法で保護者を啓発し、子どもにも良い生活習慣を確立させる。本校の今後のミッションとも言える『食育教育』を通して切り込むことも想定している。

★《本校の「学ぶ意欲」を形成する授業のポイント》

◎本校では、”学ぶ喜びのある授業”を目指している。そのためには、授業の中で子どもたちに意欲があるかどうかが問題となる。子どもが、学ぶ意欲をもつ要因に「授業がわかる」「授業が面白い」「自分自身に自信がもてる」等が大切となる。

◎知識量や事柄の理解だけではなく、「わからない」ことの中味や学びの過程の中で、自己有能感（自信・・・わかった・できた）を培ったとき、さらなる学ぶ意欲に繋がっていくと考える。

○子どもが学ぶ意欲をもつとき

子供たちは、日々の授業が日常の生活に何らかの形でかかわりが生まれ、自分との将来との関係で、意味が持てたり、よくわかり、おもしろいと感じ、自己有能感や自分自身に自信がもてたとき、「学ぶ意欲」をもつものである。

○学ぶ喜びのある授業

①面白く価値ある教材

・内面から問いを生み出しやすい教材　・素材が新鮮で、子どもの興味関心を呼び起こすもの

・内容に広がりと、深まりがある教材　・適度な抵抗感のある教材

・満足感・成就感の得られる教材

②自己有能感（自信・・・認められる）のある学びの授業

友だちの意見等を「一つの教材」として位置づけられたり、一見ズレたものであっても、それが問題解決の糸口になったとすれば”私なりの発想を認めてくれた”、”友だちも評価してくれた”、”自分意見もみんなの役に立った”という自己有能感をもち、将来に向けての自信となり、これからの生活にも生きると考える。

★今後の具体的方策

①町内懇談会での学習意欲調査の結果について報告、今後の取組における家庭の役割について説明し理解を得る。

②児童の自己評価を実施し、指導を見直し、その改善に努める。

③「学力向上拠点形成事業」の取組の **P-D-C-A** のサイクルの中に意識調査の結果を取り込み、指導法の改善につないでいく。

④家庭でできることを育友会総会、学校・学年だより等で説明、協力を求める。